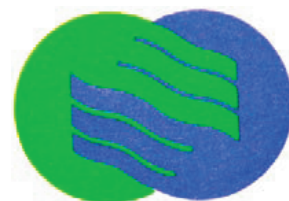


# ANIC info



Association for  
Nakano  
International  
Communications

中野区国際交流協会

2022  
March

## 子どもが日本語を勉強すること

ZOOMで第5回国際交流フェスタ開催！  
野外交流「中野街歩き～鷺宮、野方コース～」  
日本語クラス書初め展示しています！  
「やさ日フォーラム」で「オンライン料理教室」の紹介  
EW日本語学校とビジターセッション  
お知らせ 春休み子ども日本語クラス  
なでしこ会の布巾やポーチ販売中！  
お力添えありがとうございました



# 子どもが日本語を勉強すること

コロナ禍になって約2年。2022年に入り、オミクロン株が流行した1月下旬以降、大人の日本語講座・子どもの日本語クラスもオンラインでやりました。困難もありますが、少しでも学習を継続できるよう、ボランティアの方にも多数ご協力いただいております。その中で中学生日本語集中教室・子ども日本語クラスの様子を紹介します。



## 中学生日本語集中教室

毎週水曜日・金曜日の午前中、区立中学に通う日本語学習が必要な生徒たちが学んでいます。(2022年3月時点13人) 中学生日本語集中教室は区の学校に準じる取り扱いを行っているため、2022年3月現在、通常通り対面の授業を行っています。学校の授業があるときは、通常通り授業を本人のペースで教科学習に必要な基本的な日本語を学び、中野区国際交流協会オリジナルの教科書「こどものにほんご」全34課を終了した生徒はそれぞれ学校に戻っていきます。中学生は学校の勉強もより高度で難しく複雑な思考が必要となり、高校受験までも残りわずかな期間しかありません。そういった状況で、日々真面目に勉強に取り組んでいます。



宇野さん

中学生日本語集中教室が2020年に始まりました。それ以前は大人の日本語講座に中学生が混ざって勉強する状態でした。当時は長時間の勉強中にダレてしまったり、騒いんだりふざけたり、様々な問題がありました。あくまで大人のための教室であり、子どもはおまけで、子どもだけに目がいかないという面もありました。今は日本語学習が必要な中学生だけが少人数で勉強するようになり、ANICを「学校の一環」「集中して勉強する場所」と子ども自身が考えられるように変化したと思います。気構えが違います。子ども同士で「あの子は○課まで進んでいるから、私も追いつくように勉強したい。」というお互いに頑張ろうと刺激しあうようになりました。

大人と子どもは教えることも違います。大人は生活に役立つ日本語を教えればよいですが、子どもは学校の学習が理解でき、受験に対応できる日本語を教えなければなりません。また大人は自ら集中して勉強していますが、子どもは集中力がない子もいます。言われたことをやらない子もいます。子どもはやる気、心の問題も大切です。日本語ができず学校で疎外感を感じている子もいます。日本語ができるようになり、日本の子と会話できるようになり、自信をもった子は表情が明るくなり、勉強に対するやる気も変わります。指導員に勉強や受験だけではなく相談をし、心を開いていると感じる子もいます。

中学生だけの少人数になったことで指導員の目も届き、その子の特徴や性格が見え、見届けられるようになりました。どれだけできるかわからないと思ってやり始めた中学生日本語集中教室の日本語指導員でしたが、日本語を教える力がつくなが見え、子どもの成長を感じられ、達成感があります。

外国につながるのある生徒の中で親が日本人の場合、一見日本語を話せていても書けない等「聞く・話す・読む・書く」のバランスが悪い場合もあります。本当は支援が必要なのに、日本語教室に来ることができていない生徒もいます。せっかくいい場所があるので、支援が必要な中学生はぜひここに来てもらいたいと思います。



## 子ども日本語クラス

小学生を中心とした子どもが火曜・木曜の放課後に日本語を勉強しています。2021年まで子どもクラスは注意しながら対面で授業をしていました。2022年になって子どもの中でもコロナが流行しはじめたため、ついにZOOMを使いオンラインで授業をすることになりました。

せっかく覚えた日本語を忘れてしまうことがないように少しでも学びを止めず、継続して日本語を学習できるよう、ボランティアも尽力しています。



子どもの中には今まで全く日本語に触れたことがなかった子もいれば、一見ペラペラ日本語を話すように見える子も。話せるならそれで問題なし!?…いえいえ、全くそんなことはないのです。勉強には「聞く」「話す」「読む」「書く」全ての力が必要です。日本の学校に通い、日本語で算数や社会、理科といった物事の基礎を学ぶ子どもたち。学力の基礎を作り、考える力をつけるために、まず日本語力が必要なのです。

日本語はもちろん机の前に座って勉強することが初めてという小学校一年生は落ち着いて席につくのも一苦労ということも。ボランティアの先生たちはその子の将来を想像しながら見守り、勉強を教えています。

子どもたちが集中して学習するには1対1が理想です。でも教えるボランティアが足りないときは小グループになります。毎年11月ごろ開講の日本語ボランティア実践講座を受講していただくと、どなたでもボランティアとして活躍を始めることができます。あなたもぜひ子どもクラスでボランティアをしてみませんか。



矢部さん

Zoomでの子どもクラスを始めてメリットもありました。

一つはコロナ禍になって以来、マスク越しで目から上の表情しか見えなかったのが、マスクを外して表情、口元が見えるようになったこと。眉間にしわを寄せて「座りなさい!」と言うことしかできなかった子どもに対して、Zoomを通して教えることで意識して笑顔で接することができるようになりました。笑顔になることでお互いに安心感があります。口元が見えるので、発音が違うと思った時には口元を見せて教えることができました。

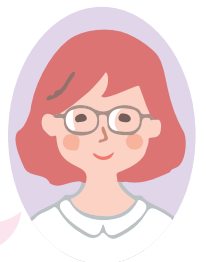
もう一つは子どもの環境が見えるようになったこと。小学校低学年の子の中には、お母さんが横にいて安心できる自宅で勉強することでリラックスして集中できるようになった子もいました。自宅からなので、開始時間に遅れてしまうということもなく精神的にも落ち着けるという場合もあるようです。子どものいる部屋の様子が変わることで、例えばペットの猫が横切った子に対し、例文に「猫のミミちゃんは…」と話すときと普段以上に耳を傾けてくれるということもあります。何に興味をもってもらえるのかわかる時もあります。

Zoomでのデメリットは子どもが練習帳に正しい答えを書けているか?対面になったときに表記の最終確認が必要なことです。相手のWi-Fiが安定せず、途中で切れてしまったこともありました。また、子ども・ボランティアともに事情によりオンラインでの参加が難しい人が疎外感を感じていないか、ということが気になります。

Wi-Fi環境があれば、スマホからでもZoomで教えることができます。スマホでもできることでオンラインだから難しいかも…というハードルを感じにくくなるといいですね。

Zoomでよかった面もあります。他の子が周りにいると気が散るタイプの子どもにとって、周りに他の子がいないことで教室よりもZoomのほうがかえって集中できるという面があります。走らないで落ち着いて自分の勉強に集中している子は教室にいたときと同じ子に見えないくらい頑張りが見える子もいます。

大変だったのは急にZoomになってしまって準備が不十分だと感じたこと。子どものほうがオンラインに慣れていて頭の回転がよくどんどんすすみます。また、1対1ならできますが、ボランティア1に対し2人、3人になってしまうと、教室より難しいと思います。



倉橋さん

# ZOOMで第5回国際交流フェスタ開催!

コロナ禍で対面で対面でのイベント開催が難しかったため、昨年度に引き続き本年度も3月5日(土) ZOOMで第5回国際交流フェスタを開催しました。

## 午前の部は「一世界旅行へ」

中国からセキさん、チンさん、ワンさん。中国の3人は中野のイーストウエスト日本語学校のオンライン受講生で、日本語を勉強しています。インドネシア出身、現在中野在住のワユーさん。ペルーからはプリシラさん。昨年シアトルやAmazon本社について話してくれたUtakoさんが本年も司会をしました。

プリシラさんはペルーのトルヒーリョという海沿いの町に住んでいます。トルヒーリョにはマチュピチュをつくったインカとほぼ同時期に存在していたチム文明がありました。トルヒーリョはチム文明の首都で、広大な「チャンチャン」という遺跡があります。現在も博物館で遺跡を見ることができます。チム文明の人々は服に生活や神様の絵柄を刺繍しました。男性は高貴な人のつけるアクセサリーを作ったり、絵を描いたりしました。ペリカンに肉や卵、貝、魚を食べました。食料保管庫も残っています。絵や食料保管庫が残っているので、現在もどのような生活をしていたか知ることができます。



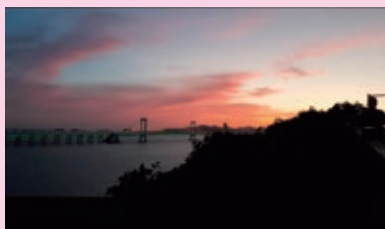
ペルーはマチュピチュだけではなく

ワユーさんは東ジャワ州、中部ジャワ州の屋台の食文化「ワルン」について話しました。東ジャワ州グルシク市のワルンの中には24時間営業のものもあって、工場の労働者が夜勤明けの朝食食べるようなところ、学生達が夕方コーヒーを飲むようなところもあるそうです。中部ジャワ州スラカルタ市の看板メニューは生姜入り牛乳。牛乳の産地で、生姜入りで健康に良いからです。「ワルン」は飲食を提供する場所であり、休憩所、社交の場の意味もあります。



ワルンの様子

中国・大連のセキさんは子どもの時にデジモンアドベンチャーのDVDを買ってもらって日本に興味を持ったそうです。大連はどの季節も過ごしやすく、東京からも飛行機で3時間くらいで行けます。海がきれいで、シーフードが有名で、おいしいです。子どものころは南京に住んでいて、南京はとても住みやすいそうです。中国の中で観光に行くなら映画「アバター」のモデルになった張家界峡谷がオススメです。



大連の夕焼けの海 (セキさん撮影)

中国・大連のワンさんは観光地でアジアで一番大きな広場である星海広場について話してくれました。近くにきれいなビーチがあり、夏になると泳いだり、遊んだりします。また、いろんなイベントがあります。ゴールドストーンビーチでは砂で作品を作る祭りが行われます。大きな砂での作品はたぶん1か月くらいかかります。大連国際ビール祭りも有名です。いろんな国の100以上のブランドのビールを飲むことができます。日本のアサヒやキリンもあるそうです。



大連国際ビール祭り

中国・広州市のチンさんは「涼茶」「外食時にお湯で食器を洗う文化があること」「飲茶」の3つについて話しました。「涼茶」は「茶」とついているけれども、お茶ではなく黒く苦い飲み物で、のどが痛いとき、咳が出るとき等、少し体調が悪いときに状況に応じたものを飲みます。「外食時にお湯で食器を洗う文化」はどのようにするかその作法もデモンストレーションもしてくれました。これは中国のほかの地方にはありません。「飲茶」では点心やシウマイ等蒸したおいしいごはんを食べるだけでなく、一家団欒の場でもあるそうです。



広州の飲茶

## 午後の部は「国際理解講座 外国につながる子どもたちの支援～コロナ禍で見えてきた現実～」

長年、中野で子どもの日本語指導に携わってきたNPO法人多文化子ども自立支援センター代表・東京の日本語教育を考える会代表の中山真理子先生から支援を行う中で見えてきたもの、そして外国につながる子どもたちが自立するために課題となることについてお話をいただきました。

日本語の学習、指導は高校に入学したらそこで終了、ではありません。高校入学はあくまで出発点です。多くの子どもは家族滞在ビザで来日しているため、長年日本で暮らしていても親が帰国するなら帰国しなければなりません。自分自身のビザを取得し、地域社会を担うパートナーとして社会的に自立するための支援が必要です。子どもたちはすぐには日本語学習の必要性が理解できないこともあります。困難にあっても最後まで寄りそい見捨てず、その子が必要性を理解し、学習に取り組んだ時が「その時!!!」です。講演後には、他の地域や団体で新しく同じような支援を検討している方々からの質問があり、熱心にお答えいただきました。東京の色々な場所で、支援している人たちの力を感じられました。





## イベント / レポート

## 野外交流 「中野街歩き～鷺宮、野方コース～」

金曜ボランティア主催の野外交流第2弾は鷺宮-野方周辺を歩きました。当日はお天気も良く、鷺ノ宮駅からスタートしました。鷺宮八幡神社で参拝、福蔵院の紅葉を見て、白鷺せせらぎ公園でレクリエーションを楽しみました。かせいチャンモニュメントの前を通り、中島屋精肉店の名物“メンチカツ”を参加者の皆さんに配りました。最終地点は野方町役場跡（野方区民活動センター）でした。クイズもそれぞれの箇所で行って、盛り上がりました。東中野のコースに続いて、車いすを借りてコースを検証しました。参加者にも乗ってもらったり、押ししてもらったりして体験してもらいました。

参加者からは「レクリエーションが楽しかった」「次も参加したい」といった声がありました。

今回は哲学堂公園コースを予定しています。お楽しみに！



## 日本語クラス 書初め展示しています！

年明けのコロナが比較的落ち着いていた時期に今年も日本語クラスでは書初めをしました。

今年は2月にJR中野駅高架下「夢通り」に展示をしました。人通りの多い場所なので、今までANIC、中野の外国人に興味のなかった人の目にもとまったのではないのでしょうか。足を止めて熱心に見ている人の姿も見られました。

留めや払い、字の大きさやバランスに気を付けて、普段慣れない筆を使っての習字はなかなか思うようにいきません。外国の人も日本人と同じように真剣に何度も練習して、自分の思ったように書けた時は、パッと花が咲いたような笑顔になります。

「正月」「夢」「初春」…定番のお題を書く人もいれば「自販機」なんてちょっと変わったお題を書く人も？！それぞれの好きなこと、思いの詰まった作品です。

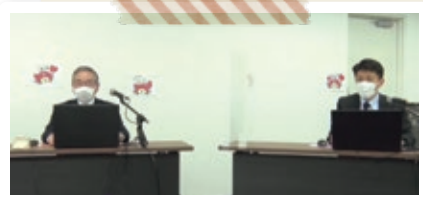
この作品は3月21日（月）まで中野ブロードウェイ階段ギャラリーに展示しています。お買い物がてら、ぜひ足を運んでください！



## 「やさ日フォーラム」で 「オンライン料理教室」の紹介

2月16日（水）、オンラインによる第2回「やさ日フォーラム」が開催されました。東京都と一般財団法人つながり創生財団の共催により、「やさしい日本語」の普及啓発を目的に実施されたもので、事例紹介の一つとしてANICから遠藤常務理事が「やさしい日本語のオンライン料理教室」について紹介しました。これは、昨年10月にボランティアグループAPGが企画・実施したものです。長引く新型コロナウイルスの影響で、従来行っていた年2回の料理講習会が実施できない中でも、何かできないかとメンバーどうしが知恵を絞り実現しました。長年、日本語ボランティアをしているメンバーが「やさしい日本語」で対話形式でレシピを説明するよう工夫を凝らし、またフードドライブのことを中野社会福祉協議会の方から、子ども食堂のことを主催する団体の方から説明いただき、外国の方への情報提供の場にもなりました。

フォーラムでは、このほか医療現場、子どもの学び、美術館での「やさしい日本語」の取り組みが紹介されました。「やさしい日本語」が地域社会の「共通言語」となるようANICでも引き続き取り組んでいきます。



## 金曜ボランティアとイーストウェスト 日本語学校のビジターセッション

2月2日（水）イーストウェスト日本語学校にてビジターセッションが行われました。トークテーマは「働くということ」で、学生は将来について考えるときに、働いた経験のある方に仕事に対する考え方等の話を聞き、今後の参考にしたいとのことで、金曜ボランティアのメンバーから3名の方に参加してもらいました。

転職や落ち込んだ時の対処法、仕事で大切なことは何か等の質問があったそうです。

金曜ボランティアのメンバーからは、噛み砕いてもなかなか伝わりにくい言葉もありましたが、伝えようとする側と汲み取るうとする側がお互いのことを考える時間こそが有意義な時間だと感じた。日本で頑張るという意気込みを感じた。などの感想がありました。



# お知らせ

問合せ

中野区国際交流協会 (ANIC)

TEL : 03-5342-9169 E-mail : anic@nifty.com

## 春休み子ども日本語クラス

**日時** 3月28日(月)、30日(水)、4月1日(金)、4日(月)  
10:00 ~ 12:00

**対象** 日本語学習の必要な小学生・中学生

**会場** なかのZERO西館3階 会議室1

**登録料** 中野区民2,000円 その他3,000円  
(初めてANICで日本語を学習する人のみ)

**教材費** 900円

**申込** 協会窓口(なかのZERO西館1階)まで

※コロナの状況によってZoom使用等変更になる場合もあります。



### なでしこ会の布巾やポーチ販売中!

#### 売上の一部は、子どもクラスに寄付されます

「なでしこ会」は中野の元気な高齢者のボランティアサークルです。

簡単な布巾縫いの手仕事をし、その収益金を近くの中野区国際交流協会や日本語学校、福祉作業所などへの支援と交流に役立て、中野区国際交流協会では「夏休み子どもクラス」「春休み子どもクラス」でがんばった子どもたちに最終日に渡す記念品(文房具)の購入に充てています。高齢者の自由な時間を活用して始めた手仕事やおしゃべりなど元気を保つための取り組みが、今ではいくつになってもできる社会奉仕、地域活動として発展し、会員の生き甲斐になっているそうです。

「なでしこ会」の布巾は中野区国際交流協会の窓口でいつでも販売しています。

布巾や着物の帯をリユースしたバッグ、マスクケース、文庫カバー、スマホケースなどあります。その時によってどんな品や柄がそろっているかは変わります。

お近くに来た際はぜひ一度見てくださいね。

いろんな柄、グッズがあります!



バッグ、布巾



マスクケース、文庫カバー、スマホケース

### お力添えありがとうございました

この一年に、ご寄付・ご協力  
いただいた方々です。(敬称略)



藤本奈都子、(株) 大山、大川ふみ子、鳥羽節子、土屋、宇野和代、新家順子、  
渡辺和子、岡野洋子、陳恵美子、吉川道代、前川啓子、北村佳子、鈴木絵美

### 編集後記

私もなでしこ会さんのグッズ、使っています。手仕事のやさしい刺繍は忙しい家事のあいまに少しほっとする気持ちをくれます。(M)

